



イネちゃん



イネちゃん



寒い時期ほどありがたみを感じる電気便座。最新の電気便座は10年前のもの比べると、約42%の省エネにつながります！！電気料金に換算すると年間で約1,700円の節約になります。

※現在販売されている省エネ機器の性能等については、「省エネ性能カタログ2017年冬版」をご覧ください。

[http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving\\_and\\_new/saving/general/more/pdf/winter2017.pdf](http://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/general/more/pdf/winter2017.pdf)



## 水素社会の実現に向けた取り組みを紹介します

### 水素特集

水素は、さまざまな資源からつくることができ、エネルギーとして利用しても二酸化炭素を出さないという特性を有していることから、日本にとって究極のエネルギー源となる可能性があります。一方、水素には、「安価な原料の調達」、「大量に製造・輸送するためのサプライチェーン（※）の構築」、「大量の利用先の開拓」などの課題があり、政府一体となって水素社会の実現を強力に推進するために「水素基本戦略」を平成29年12月26日に策定しました。

※サプライチェーン：原材料の調達から、製造、在庫管理、販売、配送までの製品の全体的な流れのこと

### ①水素基本戦略の概要を紹介します

#### ◆水素基本戦略のポイント

- ・2050年を視野に入れたビジョン+2030年までの行動計画
- ・水素を再生可能エネルギーと並ぶ新たなエネルギーの選択肢として提示

#### ◆水素エネルギー利活用の意義

- ・環境負荷低減、省エネ
- ・エネルギーセキュリティの向上
- ・産業競争力の強化

#### ◆水素基本戦略の内容

- ・安価な原料で水素を大量製造
- ・国際的な水素サプライチェーンの開発
- ・地域の再生可能エネルギーを最大限活用
- ・水素発電の商用化・大量消費
- ・FCV・FCバス・水素ステーションの普及促進



水素エネルギー利活用の3つの視点



水素エネルギー利活用の形態

水素基本戦略の詳細については、以下のURLをご覧ください。

<http://www.meti.go.jp/press/2017/12/20171226002/20171226002.html>

### ②移動式水素ステーションが札幌市豊平区にオープン！

燃料電池自動車（FCV）に水素を充電する「水素ステーション」については、北海道で初めてとなる商業用の水素ステーションが平成30年3月26日に札幌市で開所しました。なお、北海道では、室蘭市の移動式水素ステーション、鹿追町の定置式水素ステーションに続く、3か所目の水素ステーションとなります。

#### ◆移動式水素ステーション札幌の概要

- ・開所日：平成30年3月26日（月）
- ・運営会社：エア・ウォーター株式会社
- ・設置場所：札幌市豊平区月寒東2条16丁目1番6号（エア・ウォーター株式会社敷地内）
- ・充填圧力：8.2MPa（メガパスカル）
- ・供給能力：1.17Nm<sup>3</sup>/h（1時間当たり2台充填可能）
- ・営業日・時間：平日9：30～17：00



移動式水素ステーション札幌



開所式の様子

